

製品安全データシート

(1/2)

【製造者情報】
会社名：株式会社 フカガワ
住所：埼玉県川口市西青木2-9-5
担当部門：資材部
TEL：048-257-3111
FAX：048-256-6629

改訂日：2009年10月1日

【製品名】 ゴムスポンジ C-4305 (FGK-101)

【物質の特定】
単一製品・混合物の区別：混合物
化学名：クロロレンゴム (CR)
化学特性：
$$\left(-CH_2 - \underset{\substack{| \\ Cl}}{C} = CH - CH_2 - \right)_n$$

化審法官報公示整理番号：(6)-743
CAS登録番号：9010-98-4
国連分類：該当なし
国連番号：該当なし

【危険有害性の分類】
分類の名称：危険物に該当しない。
危険性：通常の取り扱いで危険性はない。
消防法の指定可燃物であるため火気に注意する。
有害性：有害性は極めて低い。
環境影響：現在のところ知見なし。

【応急処置】
目に入った場合：清浄な水で洗淨し、速やかに医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合：多量の水及び石鹼で洗い流し、速やかに医師の処置を受ける。
吸引した場合：固形物のため該当しない。
飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗淨する。可能であれば指をのどに差し込んで吐き出させ、速やかに医師の処置を受ける。

【火災時の処置】
消化方法：下記の消火剤にて風上から消火するのが望ましい。
消火剤：泡沫ABC消火器、粉末消火器、二酸化炭素消火器等
火災時の危険有害性：燃焼や熱分解、不完全燃焼により黒鉛、一酸化炭素、窒素酸化物、塩化水素その他有毒ガスを発生する可能性がある。

【漏出時の処置】 特に問題はない。

【取扱い及び保管上の注意】
取扱い：可燃性であり、熱源や火気に近づけない。
加工時に揮発分や臭気が発生するので状況に応じて呼吸用保護具を着用する。
保管：直射日光、高温多湿を避け、冷暗所で重量物を上に積載しないようにして保管する。また、指定可燃物として消防法に定められた通り保管する。

【暴露防止措置】
管理濃度：現在のところ知見なし。
許容濃度：現在のところ知見なし。
設備対策：断ち、スキ、研磨等粉塵の出る加工を行なう場合は、粉塵対策として排気装置を置くか、適度な換気を行なう。
保護具：呼吸用保護具：必要に応じて粉塵マスクを着用する。
保護眼鏡：必要に応じて保護眼鏡を着用する。
保護手袋：必要に応じて保護手袋を着用する。
保護衣

【物理・化学的特性】	形状	: 固体
	色	: 黒
	臭い	: 微臭あり
	外観	: 発泡体
	見掛密度	: 0.19 g/cm ³ (代表値)
	溶解度	: 水に不溶

【危険性情報】	引火点	: 300℃以上
	発火点	: 470℃
	爆発限界	: 現在のところ知見なし。

【有害性情報】	皮膚刺激性	: 物理的な刺激。
	眼刺激性	: 若干の刺激あり。
	感作性	: 個人差があるが人によっては稀にアレルギーを示すことがある。 また、製品から発生する発泡ガスを吸入した場合、個人によっては喉に刺激を感じることもある。
	変異原性	: 現在のところ知見なし。

【環境影響情報】	現在のところ知見なし。
----------	-------------

【廃棄上の注意】	産業廃棄物処理業者に委託し、国、県、地方自治体の関係法令を遵守して適正に処理する。
----------	---

【輸送上の注意】	荷崩れのないよう確実に行なう。 直射日光と高温を避ける。 損傷の内容に積み込む。
----------	--

【適用法令】	消防法	: 指定可燃物
--------	-----	---------

【その他の情報】	本書類は2008年11月21日に公布されたPRTR法改正に基づき作成されました。
----------	--

本記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により追加または改訂されることがあります。また記載内容は情報提供であって、記載内容を保証するものではありません。

注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご使用ください。

作成日 2010/07/01
改訂日 2011/04/01

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	I H - 7 0 0 (FGK-101)
整理番号	I0212790-2
会社名	株式会社 フカガワ
住所	埼玉県川口市西青木2-9-5
担当部門	資材部
電話番号	048-257-3111
FAX番号	048-256-6629
推奨用途及び使用上の制限	粘接着剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分2
健康に対する有害性	急性毒性（吸入：蒸気） 区分4 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分1（呼吸器系） 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分3（麻酔作用） 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
H225 引火性の高い液体及び蒸気
H320 眼刺激
H332 吸入すると有害
H336 眠気又はめまいのおそれ
H370 呼吸器系の障害

注意書き
安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
涼しい所に置くこと。(P235)
容器を接地すること。アースをとること。(P240)
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する安全対策を講じること。(P243)
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく目を洗うこと。(P264)
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。(P271)
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
救急措置
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸

	しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
	暴露した場合、医師に連絡すること。(P307+P311)
	気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
	吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
	特別な処置が必要である。(P321)
	眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
	火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
保管	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)
	換気の良い冷所で保管すること。(P403+P235)
	施錠して保管すること。(P405)
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

成分	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
酢酸エチル	50～60%	CH ₃ COOC ₂ H ₅	(2)-726		141-78-6
アクリル酸エステル系共重合体	30～40%		あり		
粘着付与樹脂	5～15%		あり		
アクリル酸ノルマルブチル	<1%		(2)-989		141-32-2

労働安全衛生法 名称等を通ずべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

アクリル酸ノルマルブチル (<1%) 政令番号：4

酢酸エチル 政令番号：177 (50～60%)

4. 応急措置

吸入した場合	医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。 水と石鹼で洗うこと。 医師に連絡すること。
目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。 医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。 医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
特有の消火方法	消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニ

消火を行う者の保護 ター付きノズルを用いて消火する。
消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境に対する注意事項 環境中に放出してはならない。
河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

回収・中和 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。

封じ込め及び浄化方法・機材 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
危険でなければ漏れを止める。
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。
除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。

二次災害の防止策 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
取扱い後はよく手を洗うこと。
飲み込みを避けること。
皮膚との接触を避けること。
ガスを吸入しないこと。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取り扱い後は手を洗う。
眼との接触を避けること。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
『10. 安定性及び反応性』を参照。

接触回避

保管

技術的対策 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触危険物質

保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。

酸化剤から離して保管する。
 容器は直射日光や火気を避けること。
 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
 施錠して保管すること。
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

容器包装材料

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
酢酸エチル	200ppm	200ppm(720mg/m ³)	TWA 400ppm
アクリル酸ノルマルブチル	—	—	TWA 2ppm

設備対策 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

適切な顔面用の保護具を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状

液体(粘濁液)

色

淡黄色透明

臭い

溶剤臭

引火点

-5.2℃ (タグ密閉式)

溶解性

水に不溶、有機溶剤に可溶。

10. 安定性及び反応性

安定性

常温、常圧で安定。

危険有害反応可能性

水との反応性はない。

避けるべき条件

高温。

危険有害な分解生成物

燃焼等によりCO、NOx等の有害ガスが発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性

情報なし

酢酸エチルとして

急性毒性：経口

ラットの経口LD50値はすべて5000mg/kg以上(ACGIH(2001), DFGOT(vol.12 1991), Patty(5th.(2001))であることに基づき「区分外」とした。

急性毒性：経皮

ウサギは18000mg/kgで死亡していない(DFGOT(vol.12. 1991))ことに基づき「区分外」とした。

急性毒性：吸入(気体)

(GHS定義で)液体

急性毒性：吸入(蒸気)

蒸気圧=10.1kPa(20℃)から飽和蒸気圧濃度=99704ppm、最も低いLC50=14620ppm<99704ppm×0.90から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50=14620ppm(2500ppm<区分4≤20000ppm)により、区分4とした。

急性毒性：吸入(粉じん)

ミストでの試験データは得られていない。

急性毒性：吸入(ミスト)

ミストでの試験データは得られていない。

生殖細胞変異原性

In vivo 小核試験で陰性結果に基づき「区分外」とした。(DFGOT

	12, 1991), IUCLID (2000))
発がん性	データ不足のため分類できない。
アクリル酸ノルマルブチルとして	
急性毒性：経口	ラットのLD50の14試験結果 (SIDS (2002), ECETOC JACC 27 (1994)) から技術指針にしたがって計算したLD50=4349mg/kgに基づき、区分5とした。
急性毒性：経皮	ウサギの5試験結果 (SIDS (2002), ECETOC JACC 27 (1994)) から技術指針にしたがって計算したLD50=2054mg/kgに基づき、区分5とした。
急性毒性：吸入 (気体)	GHSの定義による液体である。
急性毒性：吸入 (蒸気)	蒸気圧：0.43 kPa (20℃)から飽和蒸気圧濃度=4245ppm、ラット LC50 (4H)=2026ppm (NITE計算値) < 4245ppm×0.90から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50=2026ppm (500ppm<区分3≤2500ppm)により、区分3とした。
急性毒性：吸入 (粉じん)	データなし。
急性毒性：吸入 (ミスト)	データなし。
生殖細胞変異原性	ヒト経世代疫学、経世代変異原性試験、生殖細胞in vivo変異原性試験結果が無く、体細胞を用いるin vivo変異原性試験 (ほ乳類骨髄細胞を用いる染色体異常試験) で陰性である (SIDS (2002), ACGIH (7th, 2003), ECETOC 27 (1994), DFGOT vol. 5 (1993)) ことから、技術上の指針に基づき区分外とした。
発がん性	IARCで3に分類され (IARC 71 (1999)), ACGIHでA4に分類されてる (ACGIH (7th, 2003)) ことに基づき、区分外とした。

1 2. 環境影響情報

環境に対する有害性	情報なし
生態毒性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1133
品名	接着剤
クラス	3
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1133
品名	接着剤
クラス	3
容器等級	II
緊急時応急措置指針番号	128

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	第2種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 作業環境評価基準 (法第65条の2第1項)
---------	---

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法57条1、施行令第18条）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
第4類 第一石油類（非水溶性）

消防法

16. その他の情報

参考文献

- ・日本化学工業協会「製品安全性データシートの作成指針（改訂版）」
- ・日本産業衛生学会
- ・ACGIH
- ・IARC
- ・RTECS
- ・既存化学物質安全性（ハザード）評価シート（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）

その他

- *「製品安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますので、使用原料の情報変更により本データシートの情報が変更される可能性があります。
- *本データシートは、その製品を代表する値であり、安全や品質の保証、規格ではありません。本製品を取り扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。
- *本データシートは日本国内法を基に作成しています。海外に輸出する場合は、外為法や向け先国の化学物質管理法規を確認する必要がありますのでご注意ください。
- *本データシート(3項)ではPRTR法の政令改正前、改正後の情報を併記しております。平成21年度分のPRTRの届出は改正前の第一種指定化学物質に基づき行う必要があります、平成22年4月からは改正後の第一種指定化学物質の把握が必要です。

作成日 2010/01/29
改訂日 2011/04/01

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	BHS 8515 (FGK-101)
整理番号	I0191066-3
会社名	株式会社 フカガワ
住所	埼玉県川口市西青木2-9-5
担当部門	資材部
電話番号	048-257-3111
FAX番号	048-256-6629
推奨用途及び使用上の制限	硬化剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分2
健康に対する有害性	急性毒性（吸入：蒸気） 区分4 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B 呼吸器感作性 区分1 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分1（呼吸器系） 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分3（麻酔作用）
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 区分3 水生環境慢性有害性 区分3 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 シンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
H225 引火性の高い液体及び蒸気
H320 眼刺激
H332 吸入すると有害
H334 吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ
H336 眠気又はめまいのおそれ
H370 呼吸器系の障害
H402 水生生物に有害
H412 長期的影響により水生生物に有害

注意書き
安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
(P210)
容器を密閉しておくこと。(P233)
涼しい所に置くこと。(P235)
容器を接地すること。アースをとること。(P240)
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。(P241)
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
静電気放電に対する安全対策を講じること。(P243)
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

救急措置	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)</p> <p>屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。(P271)</p> <p>環境への放出を避けること。(P273)</p> <p>保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)</p> <p>換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。(P285)</p> <p>皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)</p> <p>吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>吸入した場合、呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P341)</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>暴露した場合、医師に連絡すること。(P307+P311)</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)</p> <p>吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)</p> <p>特別な処置が必要である。(P321)</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)</p> <p>呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。(P342+P311)</p>
保管	<p>火災の場合には、適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)</p> <p>容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)</p> <p>換気の良い冷所で保管すること。(P403+P235)</p>
廃棄	<p>施錠して保管すること。(P405)</p> <p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

成分	濃度又は濃度範囲	化学特性	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
酢酸エチル	55～65%	CH ₃ COOC ₂ H ₅	(2)-726		141-78-6
変性イソシアネート	30～40%		あり		
トリレンジイソシアネート	<1%		(3)-2214		26471-62-5
n-ヘキサン	<1%	CH ₃ (CH ₂)CH ₃	(2)-6		110-54-3

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）

トリレンジイソシアネート 政令番号：405 (<1%)

ヘキサン 政令番号：520 (<1%)

酢酸エチル 政令番号：177 (55～65%)

4. 応急措置

吸入した場合	<p>医師に連絡すること。</p> <p>呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。</p>
皮膚に付着した場合	<p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>水と石鹼で洗うこと。</p> <p>医師に連絡すること。</p>
目に入った場合	<p>水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>医師に連絡すること。</p>
飲み込んだ場合	<p>口をすすぐこと。</p>

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水 棒状注水
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発の危険がある。
特有の消火方法	消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護 具および緊急措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収・中和	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。
封じ込め及び浄化方法・機材	漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 危険でなければ漏れを止める。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。 除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 取扱い後はよく手を洗うこと。 飲み込みを避けること。 皮膚との接触を避けること。 ガスを吸入しないこと。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 ガスの吸入を避けること。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 取り扱い後は手を洗う。

<p>接触回避 保管 技術的対策</p>	<p>眼との接触を避けること。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 環境への放出を避けること。 『10. 安定性及び反応性』を参照。</p>
<p>混触危険物質 保管条件</p>	<p>保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 『10. 安定性及び反応性』を参照。</p>
<p>容器包装材料</p>	<p>熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。 酸化剤から離して保管する。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。</p>

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度

	管理濃度(厚生労働省)	許容濃度(産衛学会)	ACGIH
酢酸エチル	200ppm	200ppm(720mg/m ³)	TWA 400ppm
トリレンジイソシアネート	0.005ppm	0.005ppm(0.035mg/m ³) (TDL)-	
n-ヘキサン	40ppm	40ppm(140mg/m ³) (皮)	TWA 50ppm(n-Hexane) TWA 500ppm, STEL 1000ppm(Hexane, Other isomers)

<p>設備対策</p>	<p>防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p>
<p>保護具</p>	
<p>呼吸器の保護具</p>	<p>換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な呼吸器保護具を着用すること。</p>
<p>手の保護具</p>	<p>適切な保護手袋を着用すること。</p>
<p>眼の保護具</p>	<p>適切な眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)</p>
<p>皮膚及び身体の保護具</p>	<p>適切な顔面用の保護具を着用すること。</p>
<p>衛生対策</p>	<p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p>

9. 物理的及び化学的性質

<p>物理的状态</p>	
<p>形状</p>	液体
<p>色</p>	淡黄色透明
<p>臭い</p>	溶剤臭
<p>引火点</p>	-5.2℃ (タグ密閉式)
<p>溶解性</p>	水に不溶、有機溶剤に可溶

10. 安定性及び反応性

安定性	常温、常圧で安定。
危険有害反応可能性	NCO基は水や活性水素と反応して炭酸ガスを発生したり、ゲル化する。 この反応が密閉容器内でおこると、容器が膨れ、場合によっては破裂する。
避けるべき条件	高温、多湿。
混触危険物質	水、アミン、アルコール、酸化剤等。
危険有害な分解生成物	燃焼等によりCO、NOX等の有害ガスが発生する恐れがある。

1 1. 有害性情報

急性毒性	情報なし
酢酸エチルとして	
急性毒性：経口	ラットの経口LD50値はすべて5000 mg/kg以上 (ACGIH (2001), DFGOT (vol.12 1991), Patty (5th. (2001)))であることに基づき「区分外」とした。
急性毒性：経皮	ウサギは18000 mg/kgで死亡していない (DFGOT (vol.12. 1991)) ことに基づき「区分外」とした。
急性毒性：吸入 (気体)	(GHS定義で) 液体
急性毒性：吸入 (蒸気)	蒸気圧=10.1kPa (20℃) から飽和蒸気圧濃度=99704ppm、最も低いLC50=14620ppm < 99704ppm x 0.90 から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50=14620ppm (2500ppm < 区分4 ≤ 20000ppm) により、区分4とした。
急性毒性：吸入 (粉じん)	ミストでの試験データは得られていない。
急性毒性：吸入 (ミスト)	ミストでの試験データは得られていない。
生殖細胞変異原性	In vivo 小核試験で陰性結果に基づき「区分外」とした。(DFGOT (vol.12, 1991), IUCLID (2000))
発がん性	データ不足のため分類できない。
トリレンジイソシアネートとして	
急性毒性：経口	ラットを用いた経口投与試験のLD50 7500 mg/kg (CERIハザードデータ集 97-20 (1998)), 5800 mg/kg (NTP TR251 (1986)), 3060mg/kg (EHC 75 (1987)) に基づき、計算式を適用して得られたLD50 3332mg/kg から区分5とした。
急性毒性：経皮	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50 10210 mg/kg (CERIハザードデータ集 97-20 (1998)), 19360 mg/kg (CERIハザードデータ集 97-20 (1998)), 10000mg/kg (EHC 75 (1987)) に基づき、計算式を適用して得られたLD50 10000mg/kg から区分外とした。
急性毒性：吸入 (気体)	GHSの定義による液体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。
急性毒性：吸入 (蒸気)	蒸気圧=67Pa (25℃) から飽和蒸気圧濃度=660ppm (NITE)、ラットLC50のうち最も大きい値=0.34mg/L (NITE)=48ppm < 660ppm x 0.90 から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50 (4H)=26ppm (NITE) (0ppm < 区分1 ≤ 100ppm) により、区分1とした。
急性毒性：吸入 (粉じん)	データなし
急性毒性：吸入 (ミスト)	データなし
生殖細胞変異原性	経世代変異原性試験/生殖細胞in vivo変異原性試験/体細胞あるいは生殖細胞in vivo遺伝毒性試験データが無く、体細胞in vivo変異原性試験 (小核試験) で陰性結果があることによる。
発がん性	ACGIH (2001) の分類がA4であるが、IARC71 (1999) で2B、産衛学会勧告 (2004) で2Bに分類しており、指針に従いIARCの分類を優先して区分2とした。
n-ヘキサンとして	
急性毒性：経口	ラット経口LD50値=25000mg/kg (環境省リスク評価第1巻 (2002))、28700mg/kg (EHC 122 (1993)、DFGOT vol.14 (2000)、PATTY (4th, 1994)、ATSDR (1999))、32400mg/kg (EHC 122 (1993)、DFGOT vol.14 (2000)、ATSDR (1999)) および15800mg/kg (EHC 122 (1993)、DFGOT vol.14 (2000)、ATSDR (1999)) に基づき計算値を適用して区分した。

	LD50値計算値=19634mg/kg
急性毒性：経皮	PATTY (4th, 1994) に5mL/kg (換算値3297mg/kg) でウサギに死亡がみられたとの記述があるがLD50値の情報はなく、データ不足のため分類できなかった。
急性毒性：吸入 (気体)	GHSの定義による液体
急性毒性：吸入 (蒸気)	ラットLC50 (4H) = 48000ppm、蒸気圧17kPa (20°C) から飽和蒸気圧濃度=170000ppm (20°C)、48000 ppm < 170000ppmX0.90から「ミストがほとんど混在しない蒸気」と考えられ、ppm濃度基準値で判定、LC50=48000ppm (20000ppm<区分5≤50000ppm) により、区分5とした。
急性毒性：吸入 (粉じん)	データなし
急性毒性：吸入 (ミスト)	データなし
生殖細胞変異原性	げっ歯類を用いる優性致死試験で陰性の結果 (EHC 122 (1993)、DFGOT vol.4 (1992)、ATSDR (1999))、ほ乳類赤血球を用いる小核試験で陰性の結果 (ATSDR (1999))、ほ乳類骨髄細胞を用いる染色体異常試験で陰性 (DFGOT vol.4 (1992))であり、区分外とした。
発がん性	技術上の指針に示された機関において評価されていないため分類できない。

1 2. 環境影響情報

環境に対する有害性	情報なし
生態毒性	情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1133
品名	接着剤
クラス	3
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1133
品名	接着剤
クラス	3
容器等級	II
緊急時応急措置指針番号	128

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	第2種有機溶剤等 (施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 作業環境評価基準 (法第65条の2第1項) 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法57条1、施行令第18条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
消防法	第4類 第一石油類 (非水溶性)

1 6. その他の情報

参考文献

- ・日本化学工業協会「製品安全性データシートの作成指針（改訂版）」
- ・日本産業衛生学会
- ・ACGIH
- ・IARC
- ・RTECS
- ・既存化学物質安全性（ハザード）評価シート（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）

その他

- * 「製品安全データシート」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますので、使用原料の情報変更により本データシートの情報が変更される可能性があります。
- * 本データシートは、その製品を代表する値であり、安全や品質の保証、規格ではありません。本製品を取り扱う場合は記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した安全対策を講じて下さい。
- * 本データシートは日本国内法を基に作成しています。海外に輸出する場合は、外為法や向け先国の化学物質管理法規を確認する必要がありますのでご注意ください。
- * 本データシート(3項)ではPRTR法の政令改正前、改正後の情報を併記しております。平成21年度分のPRTRの届出は改正前の第一種指定化学物質に基づき行う必要があります、平成22年4月からは改正後の第一種指定化学物質の把握が必要です。